

# 全姉連会報

5

全姉連から全ての弟に捧げる  
「究極の母性」



初めましての方も、おなじみのかたもこんにちは。  
この度は全姉連会報をお手にとっていただき、ありがとうございます。  
今回で全姉連会報も第5号です。

\*

全姉連のご紹介を。

全姉連は「お姉さん」の魅力を世界に広め、推進していく非政府組織(NGO)です。  
姉属性の普及、姉萌え同志の情報交換を主に行っています。  
全姉連総本部は普段 Web サイト上で主に活動していますが、  
C65 よりコミケにも進出しました。

本書は、私・全姉連総裁が実際に触れて体験した  
姉ゲー・姉コミックなどについてレポートするものです。  
良い姉作品には惜しめない賛辞を、  
不満足な姉作品には容赦ない指摘を加えます。

\*

姉ゲー主体の全姉連会報で書くのも気が引けますが、  
2006 年前半は人妻&ママブームが到来。  
人妻は昔から定番とはいえ、ママなんてほんの一昔前まで  
かなりキワモノの部類だったのに、今や当たり前。  
もともと潜在的需要があったのか、姉属性人たちのどん欲な  
年上志向に応えた結果なのか。  
姉属性はママ属性とは家族みたいなものですから、  
良い傾向なんですがね。  
「これ1本でママもお姉ちゃんも」のような美味しい作品が  
増えればなお良し！

\*

それでは、本書が迷える弟のよりよい姉ライフの一助となることを祈って。

# 【全姉連会報 第5号】

## 姉ゲー第3世代？

# リリース徹底特集！

約2000円という圧倒的低価格ブランドとして有名なりリス。

ここ最近、実は姉ゲー攻勢が激しいことを貴弟はご存じか！？

『お姉ちゃんの3乗』のMarronや『姉、ちゃんとしようよ！』のきゃんでいそふとを第1世代、アトリエかぐやを第2世代とすれば、りリスは第3世代と位置づけられよう。

詰めが甘かったり、ポイントを外してしまっていたりすることも時にはあるけれど、そんな危うい所も含めて、何かと気になるりリス。

姉ゲーの新機軸にもチャレンジしていて、新鮮な面もあるんですよ？

そんなりリスリリース5作品を一気にレビュー。

## 表紙美麗カラー化！

## 豪華ゲスト原稿！

一目見てお分かりの通り、今号の表紙はフルカラー美麗イラスト！

絵師は、姉属性の同志でもある千里きりんさんです。

今回、全姉連のワガママなお願いに快く応えてくださいました。

さらに、総裁自身にはとても書けないような、「流れるように読ませる」文章がお得意の、机上の九龍さんにあの大作ゲームのレビューをお寄せ頂きました。

そして、あの稀代のマザコンであり、プロの赤ちゃんクリエイターであり、全ママ連総裁の名を世間に轟かすRENNOSのキョルノフさんによるコメント付きイラストを掲載。

いつもの姉ゲーレビューは、『おねすく！おねえさんすくらんぶる』、

『雪影-Setsuei-』、『人妻コスプレ喫茶2』を揃えました。

では、ごゆっくりとお楽しみください。



## 姉☆孕みつくす 2

メーカー	LiLiTH
ジャンル	姉孕ませ ADV
発売日	2005年12月22日

主人公の聡司（さとし）はHに興味津津な学生。

生まれたときから両親はなく、二人の姉・はるかと沙希との3人暮らし。姉の甘い魅力に翻弄されながらも硬派な弟道を歩んでいた。ある日、主人公は謎の死神に襲われるも、天より舞い降りた二人の悪魔に助けられる。そんな非現実的な事態にさらに追い討ちが!? その二人の悪魔ははるかや沙希であった。現実逃避をはかる主人公の前に、父親と名乗る宙を飛ぶがいこつまでもが出現。茫然自失の主人公に、はるかや沙希、そしてがいこつが代わる代わる説明するには、実は主人公は魔界の王・魔王の跡継ぎで、代々、王族はある年齢まで人間を知るために人間界で過ごし、王位を継ぐ資格を認められると魔界に戻り、王位を継ぐ決まりであるという。そして人間界にいる間は、花嫁候補となった女の悪魔が主人公の世話をするというのだ。

「その花嫁候補というのが、わたしと沙希ちゃんなのよ」「まあ、そういうわけだから、よろしく弟」

主人公との姉弟生活を捨てきれず、ずっと黙ってきたという姉二人。しかも後5日で花嫁を決める＝姉を孕ませないと、魔界へ連れ戻される、つまり人間としての主人公は死んでしまうという。こうして始まった甘く危険な5日間。果たしてどうなる主人公!?

### ■「姉☆孕」想定外の続編

「姉 孕みつくす」といえば、2005年2月に発売された姉孕ませゲー。分かりやすくインパクトのあるタイトル名に、お姉ちゃんとの赤ちゃん作りが大好きな弟達には大期待のゲームでしたが、筆者としてはあと少し物足りなく、「惜しい」1本でした。詳しい批評は前号<sup>1</sup>に載せましたが、一言で

言えば「姉弟愛が薄い」こと。特に弟の方が姉好きを貫けず、単なるエロガキに転落してしまった点が失敗でした。

ただ、「姉を孕ませなければ命がない」の状況設定の下、姉弟でひたすら子作りというコンセプトは姉属性にとって喜ぶべき設定でしたし、また姉要素を別にすれば価格に比してそこそこの出来だったので、「惜しい」ゲームとなったのです。

結果、事前の期待ほど話題にはならず、既に過去のものとなっていたのですが……それから1年も経たないうちに続編製作の発表！自分の知らないところで実は評価も売れ行きも良かったのかも知れませんが、それはさておき、「姉 孕2」によって前作の不満点が解消され、良作姉ゲーになる可能性に賭けて発売を待ちました。

### ■期待に応えてくれました!

さて、期待の「姉 孕2」、前作ではヒロインとなるお姉ちゃんが1人だけでしたが、今度は2人に姉増員。前作比200%。欲張りな弟としては、右から左からの両手に花状態が嬉しいだけでなく、タイプの違うお姉ちゃんに可愛がられて2つの姉妹が楽しめる点で大いにプラス要素。LiLiTHのお約束価格・2000円を維持しながら、姉2人も詰め込んでくれたことに感謝です。

舞台やストーリーは前作とは全く異なり、ほぼ新作といえるものです。もちろん、「お姉ちゃんを孕ませる」目的は変わらないのですが。従って、前作が未経験でも何の問題もなくプレイすることができます。

<sup>1</sup> 全姉連会報第4号 p.18

さて、最も気になる姉萌え要素ですが...  
...イイ！実にイイ！どうしてこんなに姉属性のツボを突くテキストを前作では書いてくれなかったのか<sup>2</sup>、わずか10か月ほどの間、LiLiTHに一体何が？ともあれ、姉萌え要素としては十二分に合格点でした！

どの辺が具体的に良かったかと言えば、姉弟の日常の描写が、基本に忠実かつ生き生きとしている点。ゲームは朝の場面から始まりますが、姉ゲーの場合は主人公が姉に起こされても、姉をお越しに行く役でもそれぞれ味わいがある所、この弟は起こし役。上の姉は弟にごろごろ甘えてなかなか起きてくれなかったり、下の姉はしっかり起きて制服に着替えまでしておきながら、弟が起こしに来るのを待っていて「遅いっ！」と一喝したり。ご飯の支度も弟の役目。お姉ちゃんの注文に細かく応じて、面倒がるそぶりを見せながら好きな姉達に尽くす姿は、日頃の弟ライフを自ずから想像させてくれます。

これらは実は重要なことで、特に低価格ブランドゆえに、あまり日常の場面を長く取れない本作では、長年の姉弟付き合いと日頃の姉弟関係を如何に想像で補ってもらうかがポイントだからです。今日がこうだったから、昨日も、一昨日も、その前もずっとこんな姉と弟だったんだな...とイメージさせてくれる描写があれば、期間の短さはフォローできます。近親モノは、生まれたときから寝食を共にした時間の積み重ねが何より大事ですから。

そして、平和な日常もお姉ちゃん達が悪魔であることが告白され、主人公が姉を孕ませなければ死が待っていることを告げられてからは非日常の世界に突入。ここからは姉ゲーとしての本分を忘れずに「姉孕ませADV」の要素を見せるかが勝負ですが、

この点もよく出来ていました。ネタバレになるため、ここでは詳細を述べませんが、お姉ちゃんも弟もお互いを大切に想っていることを貫く流れになっています。涙が出るほど感動のストーリーが待っているわけではないものの、姉弟がいつまでも一緒に仲良く暮らしたいという姉ゲーらしい願いを描いたことが、姉ゲーの本質から遊離せず、成功につながったと言えるでしょう。

さて、先ほどは低価格故に日常シーンを限定せざるを得なかった（と思われる）と述べましたが、Hシーンについては妥協ありません。オプションのシーン再生数は全部で17。シーンそれぞれが標準的な長さであることを考えれば、7~8千円クラスに比べてコストパフォーマンスはかなり良い方と思われます。しかも、内容はどれもねちっこい。とにかく孕ませるのが目的であることを考えれば、ねちっこくなるのは必定というもの。今作はお姉ちゃんの側も積極的に孕みたがっている事情があるので、なおさらです。致している最中も、姉は姉らしさ、弟は弟らしさがよく表れています。この辺はお姉ちゃん好きの我々を意識してくれたんだろうと推測。普段は「はるか姉」と呼んでいる主人公が、思わず「お姉ちゃん！」と口走ってしまって、姉は喜ぶ弟照れるなんてシーンもあって大満足でした。

## ■キャラクター

### ・織田はるか（長姉）

主人公の実姉であり、通っている学校の担任でもある姉。清楚な美貌と包容力をたっぷり秘めた母性タイプのお姉さん。のんびりとした面もあるが、要領の良いところもあって油断できない姉です。

弟を甘やかすことより、弟に甘えてくる方が得意で、大好きな主人公に構ってもらえた時には心の底から嬉しそうな顔をして

<sup>2</sup> 企画、シナリオなどは前作と同じスタッフ。

くれるお姉さん。時に長姉らしく大人の余裕も見せながらも、下の沙希姉に対抗してヤキモチを焼いたりする面もあったりして、可愛くて仕方がないのです。

はるか「聡司ちゃん、沙希ちゃんの面倒ばかり見るんだもの。お姉ちゃん寂しいわよ〜」

ちょっとおっとりした所はあるけど、実はしっかり者で弟のよき理解者。母親のような愛情で見守りつつ、弟とのスキンシップが大好きで、弟が何かしてくれる事が無上の喜びというはるか姉さん。姉属性の誰もが認めるであろう素敵お姉さんでした。

### ・織田沙希（次姉）

弟イジメが好きで、主人公のことは子分扱い、口よりも先に手が出て、少々がさつな所もあるけど、弟のことが大好きな姉。

はるか姉のようにストレートな愛情表現が性格的に苦手で、その点ではツンデレと言えなくもないのですが、長年染みついた親分子分関係の延長で強気になっているだけ。照れから来るツンではないことに注意。

沙希姉は弟を甘やかすことより、命令したり奉仕させたりすることで、姉と弟の服従・被服従の関係に満足するタイプ。子供の頃はさんざん弟を泣かせてきたようで、今では弟をからかうことで楽しんでいるように見えます。ただ、痛めつけたり屈辱を味あわせるようなシーンはありません。決してひどい姉ではないのです。

沙希姉が偉い姉でありながら、実は弟に構ってもらいたがりなことが分かるシーンの一つは、弟が朝起こしに行くとき既に着替えまで済ませていて、「遅いっ！」と仁王立ちで威張る場面<sup>3</sup>。お姉様の下に弟が朝の挨拶に伺うのは当然であるといわんばかりに。

沙希姉と弟の関係は、とにかく親分と子分との言い方が一番ぴったりなのですが、

姉と言うより兄だからこの人は。

お菓子を食べられる、物を隠される、おもちゃを壊される、いたずらの責任をなすりつけられる……。

沙希「弟はあたしの子分っ。これはもうずっと、一生」

弟もすっかり子分生活に馴染んでいて、逆らえないどころか、従うことが喜びであるように見受けられます。「姉の喜ぶ顔が見たいから」と内心で吐露する所もある位。ここまで沙希姉が子分扱いするのは、実は可愛い弟独占欲の強さの表れ。例えば…

と、リミッター解除されると、弟独占欲が大暴走。実に危険なアネキです。

沙希「ホントは、あたしだけ出して欲しい、弟独り占めにしたいよぉ……！！」

沙希「もう、弟なしじゃいられないんだからな… …？」

他、特筆すべきは、主人公のことを「弟」と呼ぶ点。「お、なんだ弟、姉の水着姿でも覗きにきたのか？」という具合に。姉モノには「お兄ちゃん」のようなヒロインからの定番の呼び方がないと諦めていましたが、何のことはない、「弟」と呼んでくれればよかったのです。姉御肌の姉限定ですが、これは結構使えますよ、姉ゲーマーの皆さま！

## ■姉萌え要素充実に満足！

前作「姉 孕」で感じた物足りなさも解消、それどころかお釣りの来るほど満足した姉ゲーでした。姉を2人に増やし、各姉とも弟ラブ度大幅増。2人の姉を互いに対抗させつつも仲良くさせていて、読後感もすっきりです。前作比ボリューム2.5倍増でスタッフ臨死状態だったそうですが、これで着実に姉属性ファンが付いたはず。この勢いで「姉 孕みつくす3」を！

<sup>3</sup> 公式サイトでその一部分が読める。



# ぼくの人妻お姉さん

～Mな人妻×Sの未亡人～

メーカー	LiLiTH
ジャンル	人妻誘惑恋愛 ADV
発売日	2005年6月24日

主人公・鳴沢優は愛くるしい女の子のような可憐な容姿の美少年。

女生徒に人気はあるが同年代には興味がなく、いつも年上の女性ばかりに目がいつていた。

そんな夏休みのある日、主人公は初めて親友・貴史のうちに遊びにきて恋におちる。

貴史の母親・フェロモン過多な人妻・礼子に一目惚れしたのだ。主人公の熱い劣情は礼子にも伝わり、

年老いた夫との夜の生活がなかったのも拍車をかけて、二人は年の差を越えて急接近！？

やがて同居している礼子の妹で、酔っ払うと妖艶になってしまう危険な未亡人・友香も巻き込み、トライアングル・ラブ夏休みに発展する。

果たして主人公のイケナイ恋の行方は……！？

## ■LiLiTHブランドの人妻ゲー

リリースには BLACK LiLiTH なる鬼畜系のブランドがあり、そちらでは人妻も定番の一つだったのですが、通常の LiLiTH ブランドでの人妻ゲーがこの「ぼくの人妻おねえさん」。非・鬼畜系でも、タイトル名の通り<sup>4</sup>人妻や未亡人のような年上モノもちちゃんと描けるんだということを主張するかのような作品です。

ここで登場する人妻は親友の母親で、その妹は未亡人。母親、という点でママ属性のお子さんは反応してしまうかも知れませんが、最初はさほど母性は強く表れませんが、どちらかという、子供の頃に友人の母親

を「君のお母さん」とは呼ばず、むしろオバサンと呼ぶことが普通だった、あのオバサンの感覚に近いです。もちろん、作中ではオバサンなんて呼ぶのは無礼千万な若奥様なのですが、あ、でも「こんなオバサンでもいいの…？」と年齢を卑下するお約束も出来るステキ人妻お姉さんではありません。

一昔前の筆者は、「人妻」「未亡人」と言ったワードは、フランス書院の黒表紙や劇画タッチのアダルトコミックを連想させて、若かった自分にはハードルが高く、近寄りたかったものですが、今時の萌え志向ユーザーにもすんなり入っていきける明るい雰囲気の人妻・未亡人モノが増えました。昔は暗いイメージだったゲーセンが、今は明るく入りやすい所になった、そんな感じでしょうか。本作はまさにそんな印象。

日頃はお姉ちゃん好きの貴弟でも敷居の低いツマゲーであることがお分かり頂けたところで、内容の紹介。

主人公が親友の家にお泊まりすることになった夏休みのある日からゲームはスタートします。この主人公、ややか弱い感じで気が小さめなところが年上のお姉さま方のハートを掴むようにできていて、当然に受け中心の展開になります。特に友香さん(人妻姉妹の妹の方)には終始いじられ、リードされまくり。妙齢のお姉さまに手ほどきを受ける描写も基本的に忠実で、変に奇抜さを狙わずに書かれており、この手のシチュエーションが好きなお子さまには安心して楽しめます。

<sup>4</sup> タイトルにやたら抽象的な言葉を使わず、分かりやすい言葉でアピールしてくるのは LiLiTH の良い点です。

## ■ヒロインは2人とはいえ…

本作のヒロインである人妻お姉さんは2人だけ。しかし、限られた制約の中で上手に魅力を出しています。

まず、Mっ気のある礼子さんと、Sっ気のある友香さんを配置している点。リリースの他のゲームでもそうですが、ヒロイン数が2という制約がある場合、気の優しい姉と気の強い姉、のように対照的な個性を置くのは定石。ここで変にひねると、大抵は口クな事になりません。

そして、ヒロイン2人が根本で仲が良く、互いが互いをよく知っている間柄である点。本作は、主人公とヒロインの間に家族関係や血縁関係がない分、ヒロイン間の姉妹関係が姉萌え要素を補完しているように感じます。姉から見て「あの子は な子だから」といった物言いや、妹から見て「姉さんはいつもこうなのよね」といった感じの表現は、ストーリー上は表だって語られないものの、姉妹としての長い付き合いを想像させてくれます。お陰で、3人で仲良くHやハーレムルートも味わい深いものに仕上がっています。

登場人物が少ないことを「物足りない」と思わせてしまうか、「余分なものが無くて良い」と思わせるかはシナリオライターの腕の見せ所ですが、本作に関しては上手く後者に成功させていました。

## ■キャラクター

### ・九条礼子（友人の母／姉妹の姉）

外見はクールで、勝ち気な印象を受ける表情と目つきの人妻お姉さん。息子もいれば夫もいる、れっきとした三十路奥さまです。自分の息子に対してはビシッと物を言うが、遊びに来た息子の友人には親切で優しいおばさんっていますよね？まさにあんな

な感じですよ。

外見だけの印象からはSっぽく感じるのですが、実はいじられる方がお好みの奥さま。この辺のギャップがストーリー上でも上手く作用しています。

自分の歳を気にしつつ、それでも好きと言ってくれる少年に心をときめかせる可愛い一面があり、大きな萌えポイントになっています。三十路越えにしかできない芸当です。素敵です。ワンダフルサーティーズ！

### ・ 柏原友香（礼子の妹・未亡人）

夫亡き後、姉の礼子宅に同居させてもらっている未亡人です。姉とは逆に、おっとり柔和型で、天然の色気が立ちのぼるタイプの外見。しかし、お酒が入ると途端に妖艶なお姉さまに変身し、年下キラーに拍車がかかります。

基本的にSで、ちょっといじわるな事も言ったり、致したりするのですが、痛いことや辛いことは無し。あくまで性格的な傾向であって、むしろ「積極的にリードしてくれるお姉さん」の側面が強く、姉属性が強いと言えます。

友香「きゃ、嬉しい。優くん感じてくれてるんだ。よーし、お姉さん張り切っちゃうね。ちゅ」

## ■きちんとツボを押さえた良作

『ぼくの人妻お姉さん』の名前から持つ期待に正面から応えてくれる良作です。

「経験豊富で余裕の人妻×性に目覚めたばかりの初々しい少年」の図式が大好きなお子さまなら、一層オススメ。Hシーンも充実し、質の面では妥協は無く、一人あたりのシーン数も十分です。

人妻派にもお姉さん派にも美味しく、結果的に間口が広がっています。修羅場や背徳感より、一回り年上女性との恋愛ストーリーが楽しみたい時に最適の1本です。



# LOVE☆でゅーす!

## ～姉×お嬢様の誘惑テニス合宿～

メーカー	LiLiTH
ジャンル	学園誘惑されまくり ADV
発売日	2005年9月23日

元プロテニスプレイヤーの泉堂彰(せんだうあきら)は、教師をしている姉——真奈美の誘いで、テニスの名門聖セリース学園でインターハイ出場選手のコーチをすることに。

あまり気の進まない主人公だったが、とりあえず学園へとやってきた。そこで美少女だが超高飛車なお嬢様——向居堂楓と出会う。

(中略)

主人公を尻目に真奈美と楓の間で交わされる恋の火花! かくして、主人公を巡った様々な誘惑恋バトルが始まるのだった。

はてさて、主人公は真奈美と楓、どちらの誘惑に屈するのか?! それともっ……!?

## ■超ブラコン姉とはいえ…

低価格ブランドであることよりも、姉ゲー傾向を有するブランドとして、我ら姉属性人の一部に認知されてきた頃の LiLiTH 作品です。

本作では、ブラコン姉とツンデレお嬢様女子校生の2人体制。ヒロイン2人に挟まれ、誘惑されまくり...というのが、本来のコンセプトのようですが、そんなのは我々にとってはどうでもよくて、お姉ちゃんにどんな風に可愛がってもらえるのか、どれだけ甘えさせてくれるのがポイント。お姉ちゃんの方は「超ブラコン」と強調されていたこともあり、何の疑いもなくプレイスタート。

長い前置き一切省略、急転直下のストーリー展開は慣れたもの。まずはツンデレヒロインの楓お嬢様と学園前で遭遇。大財閥

のお嬢様らしい高飛車な態度で威圧されませんが、あっさりデレ部分まで露見。出会ったばかりなのに、もうデレとは展開が早いなと思ったところで真奈美姉も早々に登場です。

ご飯食べた? 忘れ物はない? と過保護かつ弟溺愛加減を一通り表現した後、ツンデレヒロインの楓に対し、主人公争いの火花を散らします。

この辺りから既に違和感がありました。真奈美姉さん、弟のことで見境いをなくして暴走が始まると、自分の内部だけで舞い上がってしまうため、弟置いてけぼり感が強いのです。弟とあんなことやこんなことを...と独り妄想の世界に旅立ってしまうタイプの弟萌えなので、お姉ちゃんに構ってもらえないと寂しくて死んじゃう病の弟にはつらいものがあります。

弟に対する愛情がどれだけ深いかも、楓への対抗心という形で現れることが多く、主人公に対して直接に愛情が伝わって来にくいのも残念な点。姉弟愛はよその女の子との対比で生まれるものじゃないんです! 姉弟愛は人に見せつけるためにあるんじゃないんです! 姉と弟のためにあるのです!

ええ、分かっています、二人のヒロインに板挟みされ誘惑されることこそが、このゲーム本来の主題だということは。しかし、姉萌え観点からの評価を信条とする全姉連では良しとはできません。お姉ちゃんからの愛を一身に受け止めたい、お姉ちゃんへの愛を思いっきりぶつけたい気持ちで始めると、肩すかしを食らってしまう可能性が

大です。

加えてこれが最も問題かも知れませんが、弟主人公が、たいしてお姉ちゃん子でもなければ、シスコンとは言えないことも物足りなさの原因。せっかくお姉ちゃんの方から誘惑されても煮え切らず、テンションも低いまま。姉に対し素っ気ないそぶりを見せる弟であったとしても、内心では嬉しがったりするのが普通ですが、ここの弟くんはそうでもない様子。モニターのこっち側は姉萌えアクセル全開なのに、そっち側が姉に醒めてると台無しなんだよ…。

ストーリー面で特に見るべきものは無し。ゲームのボリュームは、2000円の価格相応か。立ち絵のパターンが少なく物足りない上に、微妙なものちらほら。他のLiLiTH作品と比べても、見劣りしてしまいました。

## ■キャラクター

### ・泉堂真奈美（姉）

学園の名門テニス部顧問の先生。主人公はこの学園の生徒でもなければ先生でもなく、この姉にテニスコーチと呼ばれて来ることになります。真奈美姉さんと弟は既に分かれて暮らしていたので、久々の再会になるわけですが、あまり感動の再会でもなく、過去の家族生活を思わせるような会話もなく…。姉と弟の関係の実感が薄いのは、この辺に力を注いでいないからかも知れません。

メーカー公称の説明では「おもっきりなブラコン。というより弟LOVE」。姉ゲー好きには「これくらい姉弟なら当然でしょ？」というレベルのブラコンだが、世間的には異常レベルのブラコンとの設定。彼女から出てくる男の話は全て弟のことで、「おかしい」という周囲の指摘が理解できないほど、根っから弟好き好きお姉ちゃん。

作中での弟溺愛スタイルは、「はし

た？ は持った？お姉ちゃんがしてあげようか？」のような、子供扱い+世話焼き型。基本中の基本な姉タイプだけに、ライターの真の姉属性度や姉描写の巧拙が出やすい所。なぜなら、「ブラコンの姉って言ったら、こんな感じだろ」と安易に描かれやすいので。本作では……うーん……。

優しくて、ちょっと天然なお姉さんのハズなんですけど、展開の速さとH方面の要請に追われて、弟の体が目当てのような痴女キャラに成り下がってしまったのが残念でした。

### ・向居堂楓（ツンデレお嬢様）

テニス部の実力派の主将で、大財閥のお嬢様とくれば、性格も態度も高飛車で意地っ張りになるのはお約束。その上、箱入り娘で根は純情とくれば、ツンデレは確定。

ゲーム開始直後に登場し、タカビーな面を剥き出しにして突っかかってくるんですが、彼女がお嬢様とは知らない主人公が対等に接してきたことであっさり陥落し、以後はデレキャラに。自分の見てきた中で史上最速のデレ変化でした。あとは、典型的な「素直じゃない、けど可愛い」キャラ一直線になります。

恋愛や性に疎いため、楓の取り巻きの女生徒・丸子から、先走った知識を吹き込まれて実践してしまうのがHシーンの特徴。

## ■残念ながら悪い見本に

姉から一方的に「好き」と迫られても、それを支える姉弟の絆や、共に過ごしてきた年月のような裏付けをしっかりとさせないと、上滑りして白けてしまう見本でした。

お姉ちゃんは自分の欲望よりも弟のことを大切に思う姿勢を、弟は姉を敬愛する心を持ってもらいたい、そうするだけでもっと良くなったはずの一本でした。



## ねえねえ 姉×姉えぶりてい

(2005 下半年 LILITH BEST SELECTION)

メーカー	LiLiTH
ジャンル	人妻誘惑恋愛 ADV
発売日	2006年2月27日

「う～ん、どっちから行けばいいのかなぁ？」

廊下に立ち2つあるドアを交互に眺めながら主人公は思案していた。2つのドア、それは自室へとつながるドアであり、二人のお姉ちゃんの部屋に続くドアでもある。

主人公には二人のお姉ちゃんがいる。とっても優しくおっとりげげけした朋美お姉ちゃんと、ちょっぴり強気で男嫌いだけど弟だけは激ラブな瞳華お姉ちゃん。

二人から少し歳が離れて主人公が生まれたため、無理矢理もう一つ部屋を造った結果、どちらかのお姉ちゃんの部屋を通らない限り自室へと行けなくなってしまった。

そして、最近二人のお姉ちゃんはタダでは通してくれなくなった。お姉ちゃんの部屋を通らないと仕方ないのに、通行料を支払えと言われるのだ。

「そ、そんなぁ!? ぼく……そんなお金持っていないよ……」「あらあら～。お金なんていいのよ。その代わりに、とし君とエッチなことしたいなぁ」と朋美。

「ふっふっふっ。お金じゃないよ、とし。姉はとしとエッチがしたいだけなんだから♪」と瞳華。

二人のお姉ちゃんに弄ばれるのは嫌いではないし、逆に二人の大好きなお姉ちゃんに気持ちいいことをして貰えるので嬉しいことではあるが、あまり体力がない主人公はお姉ちゃん達に強く求められるとキツイのである。

さらに主人公は、朋美と瞳華両方とものお姉ちゃんが大好き。できればどちらとも仲良くしたい。どちらか一方に偏ってしまっは嫌われてしまうかも知れない。

だから主人公は悩む。どちらにしようかと。

「……よし! こっちに決めた」

朋美と瞳華、どちらの部屋を通るか決めると、ドアへ向かって手を伸ばした。。

されたゲームの H シーン集<sup>5</sup>に特典として収録された姉ゲーです。

厳密には姉ゲーと呼べるのかどうか…。というのも、簡単なプロローグを見終わると9つのサムネイルが現れ、クリックするとおもむろに H シーンが始まります。朋美姉で3つ、瞳華姉で3つ、二人一緒に3つの9シーン。各シーン間の繋がり無く、どれからでも見られる状態、いわば「おまけ」の回想モードが本編になっています。

このように、独立した9つのシーンから構成されているだけなので、ストーリー性は皆無です。選択肢も分岐もない潔さで、お気楽にお姉ちゃんとイチャイチャするのみ。また、各姉ごとに3シーンあると言っても、通常のゲームなら3つ合わせて1回戦程度の長さなので、計3回戦程度です。

従って、本作にストーリー性やボリュームを求めることは出来ません。そういう意味では、本作だけを目当てに買うと、コストパフォーマンスは良いとは言えません。

しかし、お姉ちゃん2人の設定やキャラクターは申し分ない姉萌え度! かたや気が強めで男嫌い…でも弟だけは激ラブのお姉ちゃんに、もう一人は甘甘ほわほわで、もちろん弟のことが可愛くて仕方がないお姉さん。いずれも基本的姉キャラですが、平凡さはなく、それぞれ魅力を持っています。

各シーンの内容も、姉好きの嗜好を心得ている出来栄え。主人公がか弱い設定であ

## ■本当に短い!

本作は、2005 年下半年にリリースから発売

<sup>5</sup> 7本のゲームから各1シーンと、合計31枚のCGが収められています。

ることも相まって、お姉ちゃんに可愛がられ、いじられ、優しくリードされ...と、姉属性ならきつと満足できる完成度。

こんなに良質の素材を持っていながら、短編集なんぞでこぢんまりと納まっているのは実に惜しい、惜しすぎる。もしこれがきちんとした1本の姉ゲーだったなら...せめて量的に今の2~3倍あれば...とプレイした弟100人が100人思うはず。今からでも全然遅くない。ぜひきちんとした1本の続編を作って頂きたい！

## ■キャラクター

### ・有元朋美（長女）

丸みを帯びた体つき、ちょっとたれ目でロングヘアの外観に似合った、甘くて優しい母性的なお姉さんです。

思考や口調もマイペースのおっとり型。でも、弟のことはしっかり見守ってくれているような姉で、慈しみのこもった愛し方をしてくれます。

朋美お姉ちゃんももちろん弟溺愛型ですが、そうした姉が陥りがちな罠、「己の欲望を満たしたいだけ、弟を自分の物にしたいだけ」の姉に成り下がっていません。すなわち、弟の幸せが姉自身の喜びでもある...そんな側面もきちんと持っていて、弟のカッコいい所や努力する姿を認めてくれるお姉さんなのです。

朋美「いいよ、イっちゃっても……。我慢しなくても、出しちゃっていいのよ」

利巳「うくっ、お姉ちゃんをイかせてあげられるように頑張る！」

朋美「……うふっ、あらあら～。とし君男の子らしくってカッコいい」

### ・有元瞳華（次女）

朋美姉とは逆につり目が印象的な外観、気は少し強めの姉貴型。乱暴に分類すれば、

ツンデレに入るかも知れません。弟に対して強気に出ている、主人公が姉を想う真っ直ぐな気持ちにドキッとさせられ、慌てて顔を赤くする可愛い面がたまらない。

瞳華姉は「男なんか大っ嫌い！でも、弟だけは特別」という姉で、弟に抱きつくことが至上の癒し。怒ったり拗ねたりすると「抱っこさせろぉ～」と迫り、弟を褒めるときは「抱っこしてあげる」とするよう、弟抱っこ大好きお姉ちゃんでもあります。また、母性的で繊細な姉を持った妹のお約束、「私は 姉と違って、がさつで女っぽくないし…」という対抗心も持ち合わせていて、良いアクセントになっています。

その他特徴的なのは、一人称が「姉(ねえ)」であること。

瞳華「よしよし、姉(ねえ)のところに來るなんて、としはよくできた弟だ。ご褒美に姉(ねえ)が抱っこしてあげよう」

自分のことを「姉(ねえ)」と呼ぶお姉ちゃんなんて初めてだったのですが、違和感はなく、とても好ましいです。『姉 孕2』では、主人公のことを「弟」と呼びかける姉を登場させていたように、姉ゲーにおける新たな呼称の変革に取り組んでいるのでしょうか、リリースは。

## ■採算度外視あれば…

とにかく本作は、短すぎて残念の一言に尽きます。もともと短編であることは告知されていましたが、短編に対して短いとグチをこぼすのはナンセンスだとは分かっていますが、もし独立した1本のゲームに仕上げれば、必ずや良作姉ゲーになること間違いなし。ゆっくり読み進めても1時間で全て終わってしまう長さですが、少なくともその間は幸せ弟気分です。他のゲームのシーン集も楽しめるとなれば、2000円もぎりぎり許容範囲かも知れません。



## 奴隷な彼女 2

メーカー	LiLiTH
ジャンル	奴隷彼女と学園性活 ADV
発売日	2006年4月22日

聖風学園体育祭より二ヶ月——

主人公ミキオと奴隷(カノジョ)静香との学園性活は順調…のハズであったのだが……!?

ある日の休日、静香の家に忍び込んだ主人公は寝ている静香に襲い掛かる!!調子が出てきたところで主人公の動きがピタリと止まる。静香と思って寝込みを襲った相手が別人だと気付いたのだ。静香に劣らぬその巨乳の持ち主、それは就職のため実家を出ていた幼馴染であり唯一の天敵となる女の子、静香の姉ひなただったのだ!!

「ひ、ひ、ひ、ひな……姉(ねえ)………!？」

「……誰が淫乱だって? ミキオ」

「あわわ…てっきりその…し、静香が寝てるかと……」

「ふーん、静香とそういう関係なんだ……」

静香と間違えてひなた姉を襲ったことから、静香との交際が発覚、二人はひなたに説教されることに!?

ひなた姉の言われるまま交際禁止を承諾した主人公。

また、ひなたが聖風学園に体育の先生として転任してきたことがわかると二人の交際は絶望的に。

不甲斐ない主人公に、超機嫌が悪くなった静香を(Hで)宥めようと、悪友の丸太から『アフリカ象さえ、20分とたたずに繁殖を開始する』伝説の媚薬を入手。しかしこれを誤って、ひなた姉が飲んでしまう事に!!

「ミ、ミキオ!! 私に何を飲ましたのよ!？」

こうして定期的に発情してしまうようになったひなた、二人の関係を怪しみだす静香、聖風学園年末恒例のクラブ予算争奪戦、生徒会転覆計画……etc

風雲急を告げる聖風学園で、静香×ミキオ×ひなたの学園性活がはじまる……

### ■「奴隷」とは言いますが

『奴隷な彼女』の響きから、凌辱系ブラ

ンドの BlackLiLiTH 作品かと思われそうなゲームですが、内容は至って平和な学園モノ。鬼畜なシーンや寝取られ等は一切無いので、純情な貴弟もその点は安心。ゲーム中に、後述の幼なじみヒロインのことを「奴隷」と表現するところがあるのですが、奴隷と書いて「カノジョ」とルビが振られ、主人公のことを「主人」と書いてカレシと読ませているだけ。実際に奴隷だ、ご主人様だとの展開にはなりません。それだけに、このタイトル名は、そういう趣味がない人にもある人にも誤解を招くような気がしてならないわけですが。

### ■ガキ大将お姉ちゃんと言えば

そして、我々姉属性にとって最大の関心事である「姉ゲーなの?」との点ですが、正ヒロインの座には、紛れもない絶対的姉ヒロインの「ひな姉」こと井上ひなたお姉ちゃんが君臨する時点で、姉ゲーと言い切ってよいでしょう。

欲を言えば、ひな姉のキャラクターを上手く使って、もっつと姉ゲーとして成功する余地はあると思うのですが、それでも十分合格点をあげて良いのではないかと。

このひな姉、私の目から見ると To Heart2 のタマ姉と非常に似ています。幼なじみの姉で、子供の頃は女ガキ大將的なお姉ちゃん、小さい頃に植え付けられたトラウマによって今でも全く頭が上がりず、命令には絶対服従、怒らせると後が怖い。スタイルは良く、髪の色はそっくり…。従って、

タマ姉に惚れ込んだタイプの弟ならば、出会った瞬間からひな姉の子分になれるはず。

そんなひな姉が、媚薬の効果で主人公なしでは生きていけないH依存症になってしまうシーンから始まるのですが、基本的には主導権を握られっぱなし。自分を抑えられなくて主人公に襲いかかってしまうのは、薬のせいだけではなく、ひな姉の弟を想う気持ち含まれているのは確か。しかし、そこがあまり積極的に表現されなかったのが惜しい。尻に敷いてくる独裁的な姉であっても、姉弟愛に支えられた優しい雰囲気を含間合間にもっと見せて欲しいのが弟心。

一方、主人公については、幼なじみの静香の彼女という設定上、流されやすい性格ながらも彼女一筋。結局最後まで「ひな姉好き好き大好きっ子」にはなりません。でも、これはこれでアリ。常に上の立場にいる強い姉ヒロインと相思相愛になってしまうと、それまでの絶対姉王制が倒れて姉弟ヒエラルキーが崩れるというか。それはそれでいいけど、ちょっと寂しい…。そんな特殊な嗜好は姉マニアの私だけですか？ToHeart2のタマ姉攻略終盤でも似たようなことを思ったものですから。主人公とひな姉を恋愛感情で結ばず、ラストまで姉を畏敬の対象にとどめたのは成功と考えます。

## ■キャラクター

### ・井上ひなた（幼なじみの姉）

主人公の幼なじみであり恋人である静香の実姉。大学卒業後、学園の教師として帰ってきた。

外面は明るく、面倒見の良い性格で、優しい人柄で好かれるタイプだが、主人公にとっては永遠に頭の上がない、絶対無敵の専制姉君主。

それを上手く言い表しているのが、主人公が語る子供の頃のひな姉の様子。

ミキオ「『井上さんちのひなたちゃん』っていったら、近所の男子の間では、恐怖と尊敬の対象だったんだから」

女だてらにそこらの男子顔負けの力持ちで、粗暴で短気で、リーダーシップに溢れていて…。

刃向かう相手には容赦なく、倒した相手には過酷なまでに恭順を強要し、面倒見が良くて執念深くて……

まさに「姉御肌」の言葉がふさわしいお姉ちゃん。主人公とは血縁もない、「近所のお姉さん」ですが、実の姉弟のような付き合いのお姉さんになっています。

ここまで、何かと強権的で怖い姉とばかり強調してきましたが、ひな姉の名誉のために補足すると、甘甘で優しいシーンもあります。母性の象徴・ひな姉の豊かなおっぱいと共に。

### ・井上静香（幼なじみ）

意地っ張りで素直じゃないヒロインの典型。前作で既に主人公と結ばれており、今作では姉の乱入で騒動のとぼちちりを食う役柄。気が強めなのは姉属性向きかも。

## ■総合点でも合格！

本作については、「もっとこうだったらいいのに」という、多少わがままな希望があるくらいで、マイナスになる不満はほとんど見当たりませんでした。量的にも質的にも、他社と比較して2000円とは思えないレベル。特に本作は姉ヒロインのひな姉比率が体感的に8割近くあるとなれば…。

美人でスタイルが良くて、全く頭が上がりなくて、DNAレベルで「絶対服従」が刷り込まれるほどの姉に可愛がりたい、子分志望の弟は必プレイ。飽もムチも美味しいひな姉なのでした。

お目汚しです。はじめましての方、はじめまして  
RENNOS (恋の巣:全ママ連)のキョルノフと申します。  
このたび、全姉連の総裁さまの本にゲストとしてお呼ばれいたしました。  
「2ページやるからなんか描け!  
描かんと目の前でお姉ちゃんとイチャつく!」  
なんて脅すんですもの。  
描いてもイチャつくくせに、なんという暴君。  
こんなに酷い人間に罰があたらないわけがない。  
きっと来世は

**兄君になって妹にまみれる人生**  
を送る事でしょう。  
ざまーみろ

そんなわけで、コト姉を描きました。  
優雅とは程遠いエLEGANSお姉ちゃん。  
ばんつ脱ting (だっきんぐ)。  
こんなえっちなのは私の主義に反するのですが  
「無修正で出すから、  
検閲に引っかけらん程度にえろにしろ!  
しないとお前の嫁さん寝取る」  
なんて脅すんですもの。人の姿をした悪魔。  
他所の奥さん寝取るなんて  
よくもそんな酷い事思いつけるものです。  
人類とはここまで残酷になれるものかと  
恐怖しました。  
天が許しても私は許さん。  
きっと来世は  
**妹になって兄君に甘える一生**  
をまっとうすることでしょう。  
ユニバース

graceful girl コトナさん  
この歳になってavOxに金落とすなんて  
思ってもいなかったぜえ。  
この乳と尻ばかりデカくなった  
イケないおねえちゃんめ!

学園Ziで繰り広げられる  
年下男の子をめぐる  
年上女性の見苦しい争いを描いた  
「じえね ☆ sis」とかどうかな?  
ゾイドいらないから。  
(初代ゴジュラス派の私)

誰よりもママを愛す、RENNOSの提供でお送りします

**ReNNoS**

<http://www.h7.dionne.jp/~rennos/>





## おねすく！～おねえさんすくらんぶる

メーカー	ブルゲ はいぶりっど
ジャンル	ステレオタイプ隣のお姉さん同棲型 アドベンチャー
発売日	2006年2月24日

母を早くに亡くし、叔父夫婦と一緒に暮らしている雅史の悩みは、自分の父親を誰も教えてくれないことだった。その雅史の前に、突如「父」が現れる。父は有無をいわず雅史を引き取った。ほのかな思いを抱いていた幼なじみの純香との、突然の別れにとまどいを隠せないまま、雅史は父の屋敷で暮らすことになる。

十数年の時を経て、失われた親子の時間がようやく始まる————なんて、簡単にはいかなかった。

ある雨の日。政略結婚を言い出された雅史は、ついに怒りの逃避行(?)へと突っ走る。考えなしの若さ爆発で雨の中に行き倒れた雅史を拾ったのは、誰あろう、幼なじみの「純香ねえ」だった。純香は無防備にも、行く当てのない主人公にアパートでの同棲を提案する。若者の情動という飢えた狼の前を、ネギしよったカモが横切るような愚行!

うれし恥ずかしワクワドキドキ 24時間フルタイム。二人の同棲ごっこが始まった。

お約束ラブコメ展開目白押しのバラ色の生活。

だが……実のところ、三人は三人とも、雅史を「一人の男」とは見ていなかった。雅史は一人前の男になって、ヒロインの心を射止めることができるのか?

### ■ブランドデビューを姉ゲーで

「【ブルゲはいぶりっど】のデビュー作はお姉さんもの!!」と、メーカー鳴り物入りで発表された姉ゲーです。

登場ヒロインは年上3人。「憧れのお姉さんとの同棲ウハウハ生活!」<sup>6</sup>をメインテーマに製作したとのスタッフコメントに、

<sup>6</sup> 実際のところ、主人公の性格がさほど下品ではないので、ウハウハという表現は的確ではないと思われる。

正々堂々の姉ゲーと期待を抱いて発売日を待ちました。

幼なじみで姉同然の純香ねえ、お隣の高飛車 OL 怜子さん、押しつけ許嫁で行かず後家の早苗さん。正ヒロインの純香ねえは順当な姉キャラ、他の2人の年上は、姉属性には良い意味でクセのある姉キャラで、そんな3人に囲まれるわくわく姉ライフ...を夢見ていました。

### ■まさか、この主人公…

プロローグは、父の元を飛びだしたものの途方に暮れている主人公が、幼なじみで優しいお姉さん・純香ねえと数年ぶりに再会する場面から始まります。

行くあてがないのなら、うちに来る?と誘われて、純香ねえの住むマンションへ連れられて同棲がスタート。いや、姉と弟が同じ家に住むのは当然なので、同居というべきか。

ともあれ、お姉さんと生活を共にするのは姉ゲーのキホンのキ。ここまではセオリー通りです。

さて、純香ねえは幼なじみである主人公に対しては警戒心がゼロに近く、久しぶりに出会った主人公と一緒に住む事が嬉しい様子。自分の下着の洗濯だって平然と任せるほど主人公のことを弟同然に思っている素晴らしい姉心の持ち主なんですが、主人公が何を勘違いしたか、純香ねえの弟扱いに不満げ。え、何か嫌な予感が…。もしかしてこの主人公、姉弟関係脱却志向?

八百屋「その子は弟さんかい？」  
純香「え、弟？」  
純香ねえは、俺のことをなんと紹介してくれるのか。  
幼なじみの男の子？  
仲の良い友達？  
それとも……恋人？  
純香「ええ、そうです」  
雅史「！？」(ガーン)  
あっさり答える純香ねえ。  
鉄槌の勢いで打ちひしがれる俺。  
弟。  
純香ねえの意識内の厳しい序列が、鉛の塊みたいに両肩をドスンと重くした。  
ちょっとそれはあんまりにも……。  
躊躇いもしない。迷いもしない。  
昔から今まで一貫して、純香ねえは俺を弟としか見ていないのか。

あああ…やっちゃった…。

実の姉弟でもなく、義理の姉弟でもないお姉さんが、自分のことを弟だと公言して認めてくれることがどんなに尊いことか、お前は分かっているのか！恋人なんて安っぽい関係よりも、姉と弟と呼ばれる関係を関係がどれだけ難しいことが考えたことがあるのか！姉ゲーの主人公でありながら「恋人以上姉弟未満」の言葉を聞いたことが無いとは言わせないぞ。

このシーンは序盤で登場するので、いきなり先制攻撃を受けてしまい、その後かなりやる気が失せてしまいました。

私に言わせれば、他人である年上女性に「この子は私の弟ですっ！」なんてセリフが飛びだしたら、もうエンディングテーマが流れる寸前よ？好いた惚れたの安直な恋人関係を乗り越えて、姉弟の契りを結ぶに至るようなストーリーこそが我ら姉属性の求めるものなのに、まだまだ勘違いが横行してしまっているようで空しい。

正ヒロインの純香ねえルートは仕方ないかと思いき、怜子さんルートや早苗さんルートに期待を持つ。

しかし、残念ながら、姉ゲーとしてグッと来るストーリーは無し。それぞれのキャラの個性や生い立ちを活かした展開や、単純な「愛」の言葉一つで終わらない締めくりなどは面白かったのですが、別段姉ゲーでなくとも成り立ちうるもので、姉萌え至上主義の全姉連観点からは取り立てて褒める程ではありませんでした。

グラフィックなどの面は可もなく不可もなく標準的。

特徴的なシステムとしては、「甘えシステム」なるものがあり、要所要所で甘えボタンが発動し、甘え方の選択肢によって成功・失敗に分かれます。失敗すると即ゲームオーバー。バッドエンドのパターンが何種類も用意されているんですが、別に見たいと思えなかったのが、蛇足なアイデアだったかと…。

## ■キャラクター

### ・野木坂純香（幼なじみのお姉さん）

幼い頃、家庭環境に恵まれなかった主人公の隣に住むお姉さんで、半ば姉弟同然だった幼なじみ。容姿端麗・才色兼備で、優しく親切なお姉さん。（ただ、家事だけは主人公の方が一枚上手で、手際よくこなす主人公を頼りにしている）

行き倒れのような状態の主人公と数年ぶりに再会し、姉と弟のような気安さで独り暮らしのマンションに住まわせてくれる。主人公を見る目はいつも優しく、長い間離れていた家族が戻ってきたかのような笑顔を見せてくれるステキなお姉さんであります。

もっとも、ブラコンとまで言えるような溺愛感情は無く、世間一般基準での「仲良

し姉弟」レベル。かといって、そこに物足りなさは感じず、穏やかな姉萌え気分にさせてくれます。

これで主人公が、姉と弟の壁を越えたいなんていうおかしな心を持たなければストーリー共に名お姉ちゃんだったのですが...無念。

#### ・氷室怜子（隣人のスーパーOL）

主人公が転がり込んだ純香ねえのマンションの隣人。昼間はきりっとした、できるOL。自宅では極端にだらしない女性。酒が入るとくだを巻き始めて手に負えなくなる性質を持つ。性格的には高飛車系できつめ。時々見せる鼻持ちならない言動は生まれつきか、強がりか...

貞操観念はかなり薄く、食欲と睡眠欲と性欲が同レベル。

年下である主人公に対し、自分から童貞を奪っておきながら、純香ねえへの浮気行為だと言いがかりに近い弱みを握り、使用人同然の扱いで炊事洗濯を言いつける。この暴君姉の態度に、本当なら「虐げられる弟気分」を満喫できるところなのに、どうもその気分になりきれなかったのは、彼女が本心ではあまり弟のように可愛く思ってくれていなかったのが原因か。ムチの要素だけでなく、アメの要素も（たとえ少なくとも）しっかり描いて、弟のように可愛く思っている部分もあると見せてくれれば、さらに深みのある良いお姉さんになったはず。純香ねえが素直で優しいこととのバランスで、良い位置を保ってはいるんですが。

ここでも主人公は怜子さんに対して対等な関係に立とうとばかり努力します。そういったシナリオの方向性が全てダメとは言わないし、好みのプレイヤーもいるでしょうが、年上原理主義にたどり着いてしまった解脱者ならば、姉には一生敵わない・頭が上がらないといった関係を受け容れられ

るものなんですが。

#### ・高円寺早苗（押しかけ許嫁）

名家の一人娘で、親同士のビジネス上の政略結婚で許嫁となっていた女性。主人公はその事を知らなかったが、早苗さんの方は幼い頃から一方的に、一途に想っており、年齢が一回りも上の行かず後家。

お嬢様特有の世間知らずで、病弱で、無口（但し、スイッチが入るとマシンガントークモードに）。

主人公を想うあまりの盗撮・盗聴は日常茶飯。おはようからおやすみまで許嫁の主人公を見守る、恐るべきストーカー。そして、その独特の思考回路は異次元人と評される。主人公に執着し、けなげに追いつけて結婚を迫る様子は、解釈によっては溺愛系のお姉さまとも言えます。

そして、ここでも主人公に難癖を付けることになってしまうのですが、彼は早苗さんのことを「変人」としか見ておらず、年上の女性に対する敬意や、そこまで言わなくても、興味さえ示してくれませぬ。望まない許嫁であったり、父親に対する反感を持つ設定からは致し方ない面があるとはいえ、妙齢のお姉さまを変人扱いとはいかがなものかと。

## ■弟にやられてしまった姉ゲー

お姉さんに囲まれてハーレム生活かと思えば、実は「挫折と再起」という隠れた主題が全ルートに仕込まれていたり、完全ハッピーエンドばかりではなかったりと、意外な重みのある1本だったのですが、姉ゲー観点からは特にお勧めできるものではありませんでした。プレイヤーの分身たる主人公が、姉と弟の関係を抜きたいと思いつけていたのは致命的。既にそういうのは流行らないことを分かってくださいよお！

## 【机上の九龍さん特別ゲスト原稿『つよきす』レビュー】



# つよきす

メーカー	きゃんでいそふと
ジャンル	強気っ娘攻略 ADV
発売日	2005年8月26日

私立の学校「竜鳴館（りゅうめいかん）」に通う主人公・対馬レオは2年生。

初夏のある日、家に幼い頃に姉代わりだった

従姉弟の鉄乙女（くろがねおとめ）が引っ越してくる。

乙女は、自分達の長期出張にかこつけてなまけている息子の性根を叩き直して欲しいとレオの両親に頼まれ、家にやってきたのだった。

乙女と2人きりで暮らす生活にとまどう主人公。

さらに乙女は、生徒会の仕事を主人公に手伝って欲しいともちかける（というか命令形）

そこは主人公が想いを寄せる生徒会長・霧夜エリカが取り仕切る女帝政治の場所であった。幼馴染の蟹沢きぬ達を巻き込みさらには1年生の間で不良と言われる椰子なごみが加わり、執行部は美人揃いになったが、個性的な連中ばかり。

平凡だった日々が騒がしい毎日へと代わっていく……

### ■トシ、ツンデレ<sup>7</sup>は好きか？

あの「姉、ちゃんとしてようよっ!」「姉、ちゃんとしてようよっ! 2」<sup>8</sup>を世に送り出し、全国の姉スキー達を阿鼻叫喚のお姉ちゃん無間地獄へと叩き落したきゃんでいそふとが2005年夏、装いも新たに送り出した「強

<sup>7</sup>ツンデレ 解釈は様々ですが、一応。ツンデレというのは「いつもはツンツンしているのに二人きりになるとデレデレ」の略。要は分岐前はそっけないのにルート分岐するといちゃいちゃ出来るキャラクターを指す場合が多いです。

<sup>8</sup>「姉、ちゃんとしてようよっ!」「姉、ちゃんとしてようよっ! 2」 きゃんでいそふと、1は2003年、2は2004年。

気っ娘攻略 ADV」もとい「ヒロインオールツンデレ ADV」です。ツンデレ好きな方は勿論、その豪華なキャスティングに声優好きさんも飛びつき、前2作のファンであるよく訓練された姉スキーに、全く訓練されていない筆者のような姉スキーや普通のエロゲマーさん達をも巻き込んで、発売前から何かと話題になったゲームでした。

フタを開けてみると「ヒロインオールツンデレ」という前フリには多少偽りもあったものの、随所にちりばめられた膨大なパロディネタと、人間関係が複雑に絡み合いながらも学園生活を楽しんでいく面白さが話題になり前評判に違わず好評を博し、大人気となりました。間違いなく2005年で3本の指に入る話題作であり、ネット上のレビューサイトを覗いてみても評価の高いところが多いのですが、筆者の印象としては賛否両論真っ二つと云う感じが致します。ではこれからその点と、姉ゲー視点からの側面からとで、少々検証して行きましょう。

### ■“あたらしい”キャラ萌え

この作品、ゲームとしては先述の様にヒロインがオール・ツンデレ属性、つまりキャラゲーです。我々の言う姉ゲーもキャラゲーにカテゴリズされる訳ですが、キャラゲーというのは極端な話、「キャラに萌え

られればそれで良い」というゲームです。記号的なキャラクター付けのされたヒロインとの薄いものがたりがあって少し悩んでアッサリ解決してめでたしめでたし、ものがたりは限りなく無害で、残るものは彼女達のキャラクター性のみ。等と書くとなんだかミもフタもありませんが、しかしそれが正しいキャラゲーのあり方であり、プレイヤーである私達もそれを求めている訳です。

しかしこの作品はそういった「プレイヤーはただ萌えていれば良い」キャラゲーに「痛み」を持ち込んでしまったのです。ヒロイン達がそれぞれ善い面と悪い面という「内面」を持ち合わせ、お互いのものがたりに干渉し合い、時に助けになったり、逆に壁となって立ちほだかたりと実に人間関係が生々しい。お目当てのヒロインに萌えていれば良かっただけにプレイヤー自身が傷つけられたり、怒ったり、恨んだり、プレイヤーの心を萌えるという感情と逆ベクトルの感情へと引っ張ってしまうのです。

勿論今までそういうドラマ、とりわけ恋愛ドラマとしてのエロゲーは「君が望む永遠」<sup>9</sup>を引き合いに出すまでもなく多数存在しますが、キャラゲーを謳った上でドロドロとした恋愛ドラマを展開した作品は恐らくこれが初めてではないかと。そういった意味でこの作品は他のキャラゲーを頭一つ飛び越えてしまいました。今までの「キャラに萌えられればそれでいい」という、文字通りセックスにまで至らない、恋愛“ごっこ”のギャルゲーの延長であったキャラ萌えゲーに新たなものがたりの選択肢を与えた、そんな作品であったように思います。

## ■ 畳み掛けるパロディネタ

<sup>9</sup> 「君が望む永遠」 âge、2001年。

もう一つ、この作品の特徴として挙げられるのがパロディネタの豊富さです。ややおたく寄りの元ネタが好みの分かれるところではありますが、ネタ元もそんなにマニアックではありませんし、ネタ自体も代表的なものが多いので、少しでも読んだことがあれば大体は脊髄反射で笑えると思います。場合によってはパロディネタにパロディネタで答えたりと、その姿は正に音楽で言うところの「マッシュアップ」<sup>10</sup>を連想させるというか。音楽ではフレーズのパターンが或る程度出尽くしてしまっていて飽和状態になった時に、既存のフレーズで新しいものを作る音楽形式としてDJという存在が出てきた訳ですが、エロゲーでもその手法が出てくるというのはとても興味深かったです。エロゲーも一種の飽和状態に陥っているということなのでしょうかね……。とはいえ、つよきすはマッシュ・アップと言い切ってしまうにはオリジナル要素も強いような。どちらかというところ「エロゲ界のファットボーイ・スリム」<sup>11</sup>としたいところ。って例えの方が分かり辛いや音楽ヲタク。

パロディのネタ元に関してはつよきす元ネタ wiki<sup>12</sup>に詳しいです。私の浅い知識で

<sup>10</sup> **マッシュアップ** mashup。リミックスの一つで、2つもしくはそれ以上の曲を掛け合わせて新しい曲を作り出す事。当然の様に著作権ガラムは真っ黒で、音源はブート盤で出回る事が多いです。DJ DENER MOUSE「The Gray Album」等が有名。

<sup>11</sup> **ファットボーイ・スリム** Fatboy Slim。アメリカのDJ、本名ノーマン・クック。家に数万枚のレコードがあるというレコードおたく……もとい、レコード番長。一時期流行ったビッグ・ビートの立役者。あんまりサンプリングし過ぎて訴えられかけた際「サンプリングした曲なんていちいち覚えてない」とさらりと言い返してしまったという、マリー・アントワネットも真っ青なお方。ちなみに今では代行会社がキッチリ著作権を処理しているそう。

<sup>12</sup> **つよきす元ネタ wiki**

<http://papillon.sakuratan.com/tsuyokiss/>

つよきすのパロディの元ネタを集めた wiki。これで見ると少しネタ元の偏りも伺えて面白いです。個人的には村田洋平と南国少年パプワくんを絡めたネタをもっとですねめらっさめらっさ。

説明するよりもこちらをご覧になる事をお薦めします。

しかしながらこの作品の「評価が真っ二つ」というのはこの点に起因しているところが大きいかとも思われます。先述のように少しでも知っていれば脊髄反射で笑えるのですが、逆に知らないとわからない、わからないと反応のしようがない、ということで、そこが人によっては退屈に感じる場合も往々にしてあるようです。

とはいえ、基本は学園ドタバタコメディであり、キャラゲーであり、エロゲーです。そこに広がるのは等身大の学園生活そのもの。ヘンに色々考えずとも「こういう事あったなあ」という懐旧と「こういう事しなかったなあ」という羨望を抱きながら、他愛もない友達とのパロディネタのふざけあいを楽しむのが宜しいかと。頭カラッポの方が夢詰め込めます。CHA-LA、HEAD-CHA-LA。

## ■姉ゲーとしての「つよきす」

さて姉ゲーレビューとしては前置きが非常に長くなりました。それでは実際「姉ゲー」として見た時の「つよきす」はどのようなのでしょうか。ヒロインを見る限り年上キャラは2人しか存在せず、その中でも「姉」と銘打っているのは鉄乙女さん唯一人という、量的な判断をするならば姉ゲーというカテゴリに括ることは難しいかも知れません。しかしながらこの乙女姉さん、なかなかしっかりと「お姉ちゃん」しているのです。いや乙女姉さんに関しては「姉上」という言葉がしっくり来るかも知れません。「姉しよ」で様々な姉像を描いてきたタカヒロ氏ですが、ここでまた新しいお姉ちゃんキャラを作り出してきたという感じでしょうか。筆者のエロゲー履歴からも似たようなお姉

ちゃんは検出する事は出来ませんでした。いやまあ、お恥ずかしながら乏しいエロゲー履歴なんですが。(汗)

もう一人の年上キャラである大江山祈先生は.....正直姉としての要素を期待してしまうと少々肩透かしを食った感があるやも知れません。同性の筆者から見ると実に「大人のお姉さん」しているんですが、少し方向性が違うかと。ここはやはり乙女姉さん一人に絞って、姉ゲーとしての要素を期待したいと思います。

## ■キャラクター

### ・鉄 乙女（くろがねおとめ）

本作のメインヒロイン。主人公の従姉弟で、幼い頃から姉に等しい存在。主人公の両親の頼みで主人公の家に同居するところからものがたりが始まります。風紀委員長であり生真面目、自分に厳しく他人に厳しいタイプで説教好き。拳法部に所属しており、その強さには定評があります。学校の規律を守らない者には「肅清」と称して容赦無く特技の蹴りを叩き込む、己の正義に忠実な、正に「侍」のようなお姉ちゃんです。姉遣とは、萌え死ぬことと見つけたり。三島由紀夫が生きてたら斬り殺されますねそうですね。いやまあ、それはさておき。

乙女姉さんが主人公の家に同居することになるところからものがたりが始まる、ということはルートに乗ろうが乗らなかろうが家に居る間は乙女姉さんが常に出てくるということ。元々面倒見の良い彼女はその姉っぷりを遺憾無く発揮してくれます。制服が崩れていれば嬉しそうにそれを直し、タイが曲がっていればそれも直し、歯磨きの仕方が悪ければ正しい磨き方を手取り足取り腰取り教えてくれたり、料理は得意じゃないのに一生懸命おにぎりを握ってくれたり、一生懸命可愛い弟の為に世話を焼

いてくれます。厳格で元々体育会系でもあるので、主人公にランニングや筋トレを強要したりもしますが、これもひとえに彼女の弟への「わんぱくでもいい、遅く育て欲しい」という気持ちの表れ。ここは大人しくお姉ちゃんに従っておきましょう。厳しい修行を乗り越えれば、お姉ちゃんの優しい抱擁が待っています。うおおお、お姉ちゃ～ん！（ルパンダイブ）

……失礼、取り乱しました。(汗)兎に角、乙女姉さんは己が正しいと思った事を貫き通し、また弟にも自分が正しいと思った事をさせる、「お姉ちゃん風」を吹かせるのが何より好きなお姉ちゃんなのです。たまに押し付けがましくなる事もありますが、そういう時はどこがどう間違っているのかをきちんと進言すれば、それに対して聞く耳を持ってくれるお姉ちゃんでもあります。厳しいけれども優しいお姉ちゃん、お姉ちゃんキャラとして求める部分は申し分なく持ち合わせていると言えるでしょう。

年下にお姉ちゃん風を吹かせるのが大好きな乙女姉さんは、年下に頼られるのも大好き。頼りにされるとついつい「仕方ないな」と甘やかしてしまうところもあります。しかしそれに付け込んで調子に乗ると大変な事になってしまうので気をつけましょう。お姉ちゃんは甘やかしてはくれますが甘ちゃんにはしてくれません。弟への愛故に厳しい乙女姉さん、あんた本物だよ！あんたみたいな姉がいたらアタシは……アタシは……っく、違うこれは泣じゃねえっ、目の汗だっ……！

さて、そんな正に完璧超人のようなお姉ちゃんですが苦手なものもちらほら。そんな時は弟さん自らが盾となり、お姉ちゃんを守ってあげましょう。お姉ちゃんの弱点を補ってこそその弟、乙女姉さんに「お前には安心して背中を預けられる」と言ってもらえる様、尽力しようではないか同志！取

り敢えずさっきから黙ってれば落ち着け自分。

### ・大江山 祈（おおえやまいのり）

もう一人の年上キャラ。主人公のクラスの担任で生徒会執行部顧問で英語教師でミス松笠。年増……もとい、年上キャラの名に恥じないナイスバディの持ち主でいらっしゃいます。性格はゆったりたづぷ母のんびり、何事ものりくらりと躲す、正に「大人ってズルイ！」人。英語担当で分かり易く生徒にも分かり易い教え方ですが、基本はスパルタで厳しい方です。土永さんというオウムを飼っていて、いつもは肩に乗せています。

彼女は乙女さんと並んでの年上キャラですがサブヒロイン扱いな為、シナリオ自体は短めです。先述の通り、少しベクトルの違うお姉さんキャラであり、姉ゲーとして見た時には微妙なキャラかと思われ。共通ルートや他のキャラのルートでものりくらりと核心を避けているので正直イチャイチャは期待しない方が無難でしょう。「大人の恋愛」ってこういうものなんだなあと。個人的にはなるほどなあとと思ったシナリオでした。大人って……大人って……！（ワサビをぶぶ漬けに入れながら）

### ・蟹沢きぬ（かにさわきぬ）

主人公の隣の家の幼馴染で悪友で同級生。口は悪いが性格は明るいので友達が多く、割と泣き虫だが負けず嫌いで、勝とうとする執念は目を瞞るものがあります。良い意味でおバカなキャラです。

彼女は幼馴染で悪友、という部分の魅力が存分に発揮されたキャラクターだと思います。今まで幼馴染みで異性として見たことなんてなかったのに……悔しい…でも…という感じでしょうか。それにある人物が関わってきてなにやら面白い方向へとも

ものがたりが転がっていきます。デレた後はそれは猿のようにHシーンの連続なんです。彼女のキャラクターが良く反映された初々しさがなかなか宜しいかと。ロリキャラな外見はアレですが、ものがたりのには一番安定したシナリオです。

### ・霧夜エリカ（きりやえりか）

日米のハーフで、キリヤコーポレーションの社長令嬢。容姿端麗、頭脳明晰、運動能力抜群と、乙女姉さん以上に完璧超人ですが女王様気質であり、世界は自分を中心に廻っていると思い込んでいる存在。そのため「姫」と尊敬と皮肉を込めて呼ばれています。何事も自分が一番と思っていますが唯一、佐藤良美にだけは心を許しています。

彼女はツンデレというよりはツンツンなので極端に好き嫌いが別れるかも知れません。最初はその豪快さと女王様気質が心地良くもあるんですが、余りに自分勝手に立ち回る彼女にいい加減ハラが立ってきます。それでも健気に姫に付き従う主人公に萌えr.....じゃなかった、そんな主人公に同情の念すら湧いてきます。殆どデレは無いと思った方がダメージが少なくて済むかと。.....えっ、ダメージって？それは(r y

姉キャラかと言われれば違うんですが、弟さん妹さんで且つM属性の方にはお薦め出来るキャラクターだと思います。「姉しよ」で訓練された方ならきっと頷いてくれる、筆者はそう固く信じております。

### ・椰子なごみ（やしなごみ）

後輩さん。美人だけど人を寄せ付けない寄り付かない、一匹狼タイプ。黒髪ロングストレートに黒スト。もれなくメガネっこともついてきます。カニとは犬猿の仲。

彼女は典型的なツンデレキャラですね。そして一番キャラ萌えゲー然としたシナリ

オを持つキャラクターでもあります。孤高タイプのつれない彼女に足繁く通ううちに徐々に気の置けない相手になって...というアレです。一度心を開いてしまえば後は砂糖山盛りにはちみつぶっかけたよーなデレデレライフー直線。ツンデレの極意ここに極まれりといったところでしょうか。ただこのシナリオ、姉好きには結構辛いところがありまして.....筆者はゲーム中断して仏壇に拝みに行きました。これは酷い、酷いよなごみん.....。

### ・佐藤良美（さとうよしみ）

霧夜エリカの親友にして理解者。優しく気が利く娘で、問題児の多い主人公のクラスをまとめる委員長故、苦労が絶えません。「よっぴー」と呼ばれるのは好きではないので止めて欲しいが、性格が性格な為強く言えません。

彼女は隠れたツンデレと言うよりはデレデレですね。ルート分岐した途端に坂道を転げ落ちるようにデレの世界に移行し、んもういっそ息苦しい程にネットリ混ざり合ってしまうような勢いでデレまくりです。その合間合間にじんわりと効いてくるツン効果もなかなかオツなものです。祈先生と同様、サブヒロイン扱いなので少々シナリオは短めですが、個人的には一番面白かったシナリオでした。

.....え？ワタクシ嘘は一言も申しておりマセンヨ？

攻略可能なヒロインは以上ですが、この作品ではサブキャラ達も結構大事でして、悪友から隣のクラスの生徒まで実に個性的なキャラクター達が登場します。むしろサブキャラクター達こそがこの作品を影で支える殊勲者達であると言っても過言ではないでしょう。それは是非、ものがたりの中で実感して頂きたい。

## ■システム、CG、サウンド

システムはかなりシビアです。DirectX 9.0c を使っているのので、それに対応した PC が必要です。OS も WindowsXP 以外だと少し苦しいみたいです。DirectX7 対応の Lite バージョンもきゃんでいそふとの公式サイトに用意されていますが、それでも注意したほうが宜しいかと。取り敢えず体験版を落として入れてみて、動作確認を試みた方が間違いがないと思います。そのための体験版でもあるわけです。

CG 面は完全に好みの問題ですが.....塗りが少々もっさりしている感がありました。少し水の足りない水彩画、という感じでしょうか。絵自体は個人的に好きなので問題なしです。ただ一枚絵の使い回しがちょっと多いかな.....H シーンの使い回しはエロゲーという観点からはマイナスポイントかと。立ち絵は逆に表情が生き生きしていて良いですね。特に乙女姉さんが両手を広げている立ち絵が素晴らしい。たかが立ち絵ごときで悶絶してる自分が恥ずかしくなるくらい素晴らしいんですよ。あの乙女姉さんを見るまで死ぬるかっ！（マテ）

サウンド面は I've という事で、一応の基準は満たしていると思います。少々派手めな曲が多いのでうるさく感じるときもありましたが不足はありません。H シーンでボサ・ノヴァはびっくりしましたが、他は問題ないでしょう。逆に言えばどれが良いという曲もあまりなかったのですが.....あ、乙女姉さんのテーマはド渋くて良かったですね（また姉か！）。ただ BGM とボイスのバランスはバラバラなので自分で調節し直した方が宜しいかと。まきいづみさんのキャラ（祈先生と西崎さん）が小さめなので、それを基準に他のキャラを調節すると良いでしょう。エンディング曲は人気があるようです。筆者は主題歌派。

## ■総評

言ってしまうと、「この姉の為だけにやっつけ！」という作品ではありません。他の要素に惹かれてやってみたらそこには素晴らしいお姉ちゃんが居た、という作品です。兎角「姉しよ」を作った“あの”きゃんでいそふとの作品であり、「姉」を描くことにかけては定評のあるタカヒロ氏の作品であり、それじゃ間違いないだろうと、その過度とも言える期待に見事耐えうる姉だったというべきでしょう。

姉ゲーとしてはお薦めはしませんし、パロディネタに抵抗がある方やわからないイコールつまらないと感じる方にもお薦めはしませんが、それを差し置いてもエネルギーでパワフルで、あらゆるものをすっ飛ばす勢いのある作品だと思います。友達同士の掛け合い漫才にバカ笑いして、青くさい恋愛ドラマに心情を引っ掻き回される割には残るものはこれといってありません。ただ通り過ぎてしまった「何か」が、少し気になる作品ではあります。その「何か」が「何か」に似てるとは口が裂けても言いませんが。って誰がキレイにまとめると言っ（ry

## 《総裁よい》

本稿は、ブログ「これより帰投する」の筆者である机上の丸龍さんに三顧の礼を尽くしておねだりした結果、実現したものです。大作となった作品だけに、総裁自身気後れして書きあぐねていたレビューを一刀両断に仕上げてくださいました。ありがとうございました。

【これより帰投する】

<http://planetlaika.moe-nifty.com/blog/>



## 雪影 -setsuei-

メーカー	Silver Bullet
ジャンル	義姉ノスタルジックアドベンチャー
発売日	2006年3月24日

平山修二は雪国で生まれた。

両親が死んで、天涯孤独になった修二は親戚に引き取られたが、周囲の視線は心温まるものではなかった。どこか疎まれながらも、都会での生活にも馴れていき、友人にも恵まれる。少しの我慢と平穩に充ちた日々へと次第に埋もれながら、修二は毎年冬の休みを利用して実家に帰る習慣だけは捨てることができなかった。

両親が死んだ日、幼い修二は、姉を名乗る少女と出会った。『深雪』という名の少女とは、もちろんこれまでに面識ひとつない。両親はずっと一緒だったし、以前に子供を作ったとも聞かない。あの木訥な両親が……と思った。そして、心のどこかでは、彼女が義姉などではないことを理解していた。自分が利用されているのかも知れないとさえ考えられた。が、構わない。そう、思った。

やはりどこかに寂しさはあったのだろう。今や無人となった実家は広く、寒く、虚しさは募るばかりだった。姉の存在で、失われた家族のあたたかみを少しでも取り戻せるのなら。

この時から、修二と義姉はともに暮らすようになった。修二は都会に、深雪はこの家に。だから、それは毎年帰省する一冬だけの間の、短く儂い姉弟関係。

慎ましく、ひそやかに、繰り返される一冬の夢――。

### ■冬、雪、田舎、郷愁…

タイトル名の『雪影』が表しているように季節は冬、舞台は雪深い田舎、登場人物もごく限られた人数と、一見地味なこの作品。どうしても陽気で賑やかドタバタ系姉ゲーに流れがちな筆者が、この『雪影』をパスすることが出来なかったのは、メインヒロインが姉であり、ジャンル表記が「義姉ノスタルジックアドベンチャー」だった

ことだけではなく、この作品の持つミスリアスな雰囲気発売前から感じ取っていたからかも知れません。

冬、雪、田舎、郷愁…そんな言葉から連想する世界観。実際にプレイしてみると、そういったイメージがよく表れていて、その意味で全く期待を裏切らない作品だと言えるでしょう。

### ■生みの姉より育ての姉

物語は、まだ幼い主人公・修二が両親を失った日に、「姉」を名乗る女の子・深雪に声をかけられる場面から始まります。

全く覚えもない、面識もない女の子に「姉」だと言われ、戸惑いを覚える修二。天涯孤独の彼は、厄介な居候として東京の親戚に引き取られたが、冬の僅かな間実家に一人帰省し、その間だけ生活を共にする「姉」と弟の絆の変化が、このお話の柱になっています。

彼女が本当に血を分けた姉なのか、そもそもなぜ急に現れて、どうして姉だと名乗り近寄ってきたのか、それすらあいまいなままストーリーが進展するのですが、その事が深雪姉さんの姉らしさを失わせることにはなっていません。幼なじみですらない押しかけヒロインを、ここまで姉らしく感じさせてくれる演出はなかなかのもの。

もちろん、主人公は当初姉だと信じることも、認めることもできないのですが、年を重ねるごとに、この世でたった一人の、かけがえのない姉だと思えるようになってき

ます。実姉モノのように、初めから姉と弟という関係が確立しているストーリーとは異なり、赤の他人としての位置付けから徐々に本当の姉と呼べるヒロインに移り変わっていく様子を描く本作。終盤は並の実姉モノよりも姉ゲーらしい心理描写がなされていて、「生みの姉よりも育ての姉」を体現した作品になっていました。

## ■姉ストーリー主体の良脚本

雪深い山を背にした田舎町・かみのやま<sup>13</sup>が主な舞台の『雪影』ですが、ストーリーの柱として雪女のような伝奇物語と、民俗学的な題材がふんだんに織り込まれています。それらは、出自も素性も謎に包まれた姉・深雪姉さんの正体につながるものとして用意され、主人公が彼女をすっかり姉として認めた後も、一体何者で、何故自分の前に現れたのか、探求心をかき立てる要素にもなっています。

姉の正体を探るというミステリー的な話の本筋があると、その解明ばかり躍りになって、肝心の姉萌え要素が置き去りになってしまう...というのは、かの『アネモネ』<sup>14</sup>の残念な例があるのですが、本作では巧みに回避。姉と弟が絆を深めていく物語と一体になり、自然な感じで展開していきます。

鶴を助けた男が好奇心に負けて、見てはならない姿を見てしまったように、姉について知ってみたいという押さえきれない衝動に突き動かされ、村に今も残る禁忌を踏み越えてまで弟が見た真実は何なのか、その時、姉と弟の関係はどうになってしまうのか。姉ゲーとしての本質を保ちつつ展開するストーリーは読んでいて飽きません。

深雪姉さんに関するシナリオは 4 ルート

<sup>13</sup> 雪女の伝承が残る山形県上山をそのままモチーフにしていると思われる。

<sup>14</sup> 2003年・PINE。会報創刊号にレビュー掲載。

あり、最もハッピーエンドで終わるトゥールルートは、最初から到達できないようになっています。即ち、バッドエンドも含め、段階を追って物語全体を楽しめるようになっているということ。3 番目のルートでストーリーの核心に触れるにもかかわらず、最後のトゥールルートにも息詰まる展開がもう一山用意されていたりして、最後までしっかり楽しませてくれます。

明らかにされる謎も含め、細かい設定などは考え始めると「？」とってしまう点は、なきにしもあらず。細かいことが気になってしまう性格だと、評価を下げてしまうかも知れません。「まあ、ゲームだし」と細かいことにこだわらない性格の筆者は問題になりませんでした。

テキストは直喩・隠喩を多用している文学調。ギャグ要素はかなり控えめです。難しめの漢字、言い回しが随所に登場する割に、誤字・脱字がやや目立ったのはもったいない。

グラフィック、BGM、システム面についても、特に不満らしい不満はありません。雪国の雰囲気に合わせて、控えめで情緒重視の仕上がりになっています。

ストーリーに力点が置かれていて、どちらかというとおとなしい印象を受けるゲームですが、意外にも H シーンが充実。そして、そのほとんどが深雪姉さんとのもので、ここぞという重要な節目に用意されています。言い忘れましたが、全編に渡って純愛仕様ですので、その点心配するプレイヤーはご安心を。

## ■キャラクター

### ・平山深雪（謎を秘めた姉）

本作における全ての中心的ヒロイン。両親が行方不明になったのと引き替えのように降って湧いた姉として登場します。

常に優しい性格で、ややおっとり型。弟に対しては「姉が弟の世話をするのは当たり前なんだから」と世話好きで、過保護な一面もを見せてくれます。ただし、病的なほどの溺愛ぶりはなく、しつこさは全く感じない、良くできたお姉さん。

「もう、私といるのに独り言なんてダメよ。悩み事があるならお姉ちゃんに相談するの、ね？」  
「子どもじゃなくても、いつまでたっても、しゅうくんは私の弟なの。お姉ちゃんが弟のことを気にするのは当たり前のことなんだから！」  
「私たち姉弟なんだもの。姉弟が一緒に寝たって何もおかしいことはないわ」

そして、言うまでもなく、弟のことを愛してくれているお姉さん。もちろんその愛とは姉弟愛。家族愛のような、広い意味の愛にすり替えず、きちんと姉弟愛として描かれていることが非常に嬉しいのです。

さらに姉属性の我々にとってポイントが高いのは、弟に対してかなりのヤキモチ焼きだったりするところ。

「昔のしゅうくんは……ちっちゃくて可愛かったなあ。それなのに、いつの間にか、私のことどうでもいいような男の子になっちゃうなんて。」  
「お姉ちゃんより、あの子の方がいいんでしょ!？」  
「お姉ちゃんは、いつだってしゅうくんのことが一番に好きなのに！それなのに」

と、弟が他の女の子と仲良くしているのを見ると、へそを曲げてしまい、部屋にこもってしまう深雪姉さん。姉ゲーによくある一コマではあるのですが、こと深雪姉さんに関してはちょっと意外な一面だったりするので、余計に可愛く思えてしまいます。

他にも、弟に冷たくされると、分かりやすい泣きをしてみたり、案外侮れないタイプの姉ということが次第に見えてくるでしょう。

一方、良くできた姉を引き立たせくれた弟についても語っておかねばなりません。

初めは「姉」だと言われても信じることはできず、反発する態度すら見せる弟ですが、徐々に心開き、姉を愛しく想う弟への変化が描かれています。

照れもあって、なかなか「お姉ちゃん」と呼べずに一人ジタバタする様子もあり…

姉と弟。

姉が深雪。

弟が俺。

言葉でハッキリと言われ、改めて意識する関係。

深雪をお姉ちゃんと呼ぶなければいけないのか。

修二「お姉ちゃん……？」

無意識に呟いてみて、赤面した。

冗談じゃない。

呼べるわけがない、とも思った。

何しろ、生まれてからこの方、ずっと一人っ子だったのだから。

この後、やっと「お姉ちゃん」と呼ぶことができたとき、当の深雪姉さんは大感激するシーンもちゃんと用意されています。

姉を大事に思うが故に、己の欲望だけで姉を汚したくないと考える純な心の持ち主で、かつ、その心を保ち続けることがトゥルーエンドに繋がる仕組みにもなっており、深雪姉さんの魅力を引き出している名弟といえるのではないのでしょうか。

## ■姉と弟の絆を見つめた良作

この作品、実は本号で取り上げている『おねすく』と同じシナリオライターが関わっています。『おねすく』については失望の一言に尽きるのに、本作は一転して高評価。とても同じ方だとは思えません。

最初から最後まで姉と弟の絆をテーマにした姉ゲー『雪影』。心静かに姉弟愛を感じたい時には特にお勧めできる作品です。

# 姉をボテつとね

RENNOSのキョルノブです。2枚もあってすみません。  
人妻寝取るんで許して下さい。

喫茶ファミーユのパティシエ  
杉澤恵麻(すぎさわ えま)お姉ちゃん。  
通称まー姉ちゃん。  
超ブラコンだだっ子義姉にして

## 未亡人。

そう、未亡人。未亡人未亡人。  
ありとあらゆる条件を兼ね備えた  
パーフェクトにダメなお姉ちゃん。  
狙いすぎだぜ、でもそこが好きさ!

通常の立ち絵が

「赤ちゃんがいるの。仁くんの」  
っていう風に見えて仕方ないので  
その願い、かなえよう!  
ってな絵です。

さすがに下半身あのぴちぱつでは  
いかんだろうと、スリットスカートに。

んっん〜♪

やはり、姉には弟の子を妊娠した姿が  
よく似合う。

## 姉のボテ腹も愛

(こんなにダイレクトに描いて大丈夫っすかね?この本)

ReNNoS <http://www.h7.dionne.jp/~rennos/>

遊びと子供をクリエイとするRENNOSの提供でお送りしました





# 人妻コスプレ喫茶2

メーカー	アトリエかぐや TEAM HEARTBEAT
ジャンル	人妻らぶらぶエッチ AVG
発売日	2006年4月28日

海辺の町の小さな商店街に、今年も夏がやってきた。

その商店街の一角に、未亡人の店主・桜井桜子が経営する『喫茶サクライ』がある。

この夏、商店街ではちょっとした事件が起こっていた。

それは、新興レジャー施設『オーシャンランド』から提案された商店街の再開発計画。

「亡き主人の残した店を守りたい」と反対を表明した桜子だったが、『オーシャンランド』経営者から持ちかけられた計画取り止めの条件は、

「この夏が終わるまでに、『喫茶サクライ』が『オーシャンランド』内のカフェの集客数を上回ること」…。

その計画取り止めの条件をクリアするべく、桜子の息子・恭介は常連客の人妻たちや、その娘、果ては再計画を持ちかけてきた経営者の夫人まで巻き込んで、『コスプレ喫茶サクライ』をオープンすることになるのだった…！

## ■ママゲーだ。それがどうした。

「はぁ…桜子ママ…可愛かった……」

と、姉原理主義者・全「姉」連総裁の立場をしばし忘れてうっかり口走ってしまうほど、正ヒロインの桜子ママ 実母 の破壊力がすさまじい。この一点だけでプレイする価値があり、しかしそう言い切ってしまうと、もはや姉ゲーではなくママゲーになってしまうのだが、そんなことはどうでもいいとさえ思ってしまう1本。

うっかり全ママ連に全面転向してしまいかねない危険性をはらんだ『喫茶サクライ』とびっきりのママ、奥さまもいらっしゃいますが、もちろん極上の姉貴系人妻も完備。油断も隙もないアトリエかぐや品質健在。

## ■人喜で、らぶらぶで、エッチで

姉ゲー元年である 2003 年に登場した前作『人妻コスプレ喫茶』は、まだ姉ゲーの甘美な世界に溺れ始めたばかりの頃、ちょっと背伸びしてみたくてプレイしてみた、思い出の「ツマゲー」。当時の自分はまだまだウブで奥手なお子ちゃまだだったので、人妻の響きに、どこか背徳的で薄暗さのようなものさえ感じていたのに、初心者でも敷居が低く、明るい雰囲気で、「ツマゲー」の印象を一発で変えてくれたものでした。

そして、今回その続編である『2』は前作以上に明るく、「らぶらぶエッチ」満載になっています。

可愛い制服のウェイトレス…というと、総裁の大好物「Pia キャロットへようこそ！！」シリーズが思い起こされますが、Pia キャロ伝説の年上ヒロインびいきが最新作「G.O.」で途絶え、嘆いていたところに現れた「人妻コスプレ喫茶2」。タイミングが良すぎます。そこら辺に転がっている素直じゃない同輩ウェイトレスや、妹チックな後輩なんてもう要らない。素敵な年上の奥様方がウェイトレスを務める喫茶店でただただ癒されたいと願う Pia キャロ世代なら、乗り換えに最適。

また、男として生まれたからには、姉だけでなく、ママ属性・人妻属性も身につけてギャルゲーライフをもっと豊かに楽しみたいとの欲求も自然なこと。そうした欲求を一度に満たすためにも『人妻コスプレ喫茶2』は絶好の1本です。

## ■背徳感や罪悪感は？

このゲームを語る上で外せないのが「背徳感」。血の繋がった家族・親族を恋愛対象にする姉ゲー・ママゲーにとって、近親相姦という禁忌をどう描くかは大きなテーマの一つですが、筆者に関してはこのテーマは優先順位の低い方でした。何故かと言えば、自分自身に実の姉がいないことで、「姉と一線を越えた関係を持つ」ことの重みが理解できなかったから。私にとって、血縁があるとかないとかはそんなに重要なことではなく、たとえ義理でも、幼い頃から寝食を共にする間柄で、自分のことをよく知ってくれて、可愛がってくれる年上こそが“姉”であって、「生みの姉より育ての姉」の言葉がそのまま当てはまったわけです。

しかし、そんな私にも実の母はいます。

そして、本作に登場する桜子ママは実母。

もうお分かりですね。いくら鈍い私でも、「血縁」の持つ意味が実感を伴って感じられ、近親モノにおける背徳感とはそういうものなのかと、真髄を見た思いでした。

従来、業界自主規制によって許されなかった実母設定が可能となったことで実現した桜子ママの存在ですが、今まで規制によって締め付けられていた反動なのか、ストーリー上では「実母」であることが積極的に表現されています。母も子も、越えてはいけない一線を意識して葛藤する様子もきちんと描かれています。

しかし、鬱々した描写までは至らず、「母ちゃんのことが好きで好きでたまらない、でも…」という感じで、必要以上に重くせず背徳感を煽っている点が良くできています。逆に言うと、救われないくらい泥沼の、後ろ暗い背徳感にゾクゾクするような玄人には物足りなく映るかも知れませんが。

また、ヒロイン4人中3人が現役人妻であることを考えると、そんなヒロインを攻

略する＝寝取るってことじゃないの？修羅場が避けられないんじゃないの？との疑問が浮かぶのも当然。

しかし、その点は上手く処理されていて、罪悪感まで感じることはほとんどないでしょう。むしろ、幸せなプロローグシーンが各ルートに用意されているほどで、きれいにまとまっています。前作では、中盤から後半にかけて話が重くなるシナリオもありましたが、今作ではほぼ無くなって、よりライト感覚で最後まで楽しめます。

## ■キャラクター

### ・櫻井桜子（実母）

紛れもなく本作のメインヒロイン。今までのギャルゲーでは、母親的立場のヒロインが登場しても脇役的なことが多かったのですが、今回は中心的存在です。

母一人・子一人で経営している喫茶サクラの店長であり、高校を出るような歳の実の息子＝主人公がいながら、あり得ない若い容姿と可愛さを誇る、現在スロー再生中で年齢を重ねているお母さん。設定上は最も年上なのに、最も若く見えるという反則技なので、たとえ桜子ママに心を奪われても、何も恥じることはありません。母親と脱衣所でバツタリという、リアルならば嫌悪感 200%のイベントでも、桜子ママならドキドキ感 200%を味わえること必至。

性格は基本的に優しいのは言うまでもなく、茶目っ気のある、やや天然も含んだ和やかタイプ。いざというときには芯の強いところを見せたり、そしてもちろん息子思いの素敵な母親の顔も見せてくれます。とはいえ溺愛型ではなく、息子を一人の人間として尊重してくれて、息子の恋も見守ってくれる、良くできた母親。でも、桜子ママルートで一線を越えた後は甘甘かつヤキモチ焼きに転身。この辺のメリハリが上手

です。

息子は息子で、周囲からマザコンとからかわれるほどのママスキー。もっとも、母親依存的でダメな意味のマザコンではなく、我々がシスコンと呼ばれる時のあの感覚に近いものです。

前述したように、実の母親であることをよく意識した設定、シナリオになっているので、根っからのママスキーだけでなく、アネスキーの新たな属性開拓にも適する母親であるといえるでしょう。

### ・香月夏姫（元先輩・現隣の若奥様）

主人公の高校時代の二つ上の先輩で、現在ではお隣の八百屋の若奥様。

典型的な「ノリが良く、サバサバした、姐御肌」のお姉さん。総裁の最も得意とするところの姉です。

「……ダメ。さすがに疲れたわ。肩揉め、優しい弟」

「エッチな弟分を持つと姉貴はタイヘンよね〜」

「こーんな楽しいオモチャ、簡単に手放さないわよ〜」

「それともお？これから先もずっと隠れてやりたい？お姉ちゃんはそれでも構わないけど〜？」

とまあ、隣の奥さんにしておくにはあまりにも惜しすぎるお姉さんキャラの持ち主。古くからの知り合いで、家族同然の付き合いをしていることから、実際姉貴同然の存在です。彼女には頭が上がらないことを主人公も心得ていて、不遜な態度を取ることもなく、良い弟を演じてくれています。彼女の存在によって、本作を姉ゲーと呼んでしまっても間違いはない、そんな姉貴系奥さまでした。

### ・西園寺クレア（金髪美人奥さま）

貞淑で物静かな印象を受ける、北欧系な奥さま。女子校生の娘を持ちながら、異常

な容姿を誇るのは桜子ママと同様です。

基本的には控えめな性格（しかし、スタイルは正反対）だが、主人公のような年下の男の子に対して心惑わせるちょっかいを出してくる困り者。その豊かな胸元に目を留めようものなら、ふふっと口元に笑いを浮かべ、「触ってみたいんですか？」と問いかけてくるような。小悪魔系と言えるかも知れません。

彼女の実の娘・リサは生意気盛りの女子校生。美人なママに美人の娘と来れば、もちろんあります親子丼。

### ・伊藤志乃（ライバル会社社長夫人）

地域のリゾート開発を計画している会社の社長夫人かつ有能な社長秘書。喫茶店の売り上げ勝負を挑まれた、いわばライバル関係にある会社の社長秘書が、なぜか喫茶サクライのウェイトレスをしていることが示しているように、巻き込まれ系で押しに弱いタイプ。個性豊かな面々が揃う喫茶サクライでは、真面目な性格が命取り。一番まともな人なのに、一番のいじられキャラになっています。当然、そこが彼女の魅力になっているわけですが。

## ■新たな属性開拓に

人妻主体で、しかも実母まで登場すると聞くと、いくら姉属性を自認していても、まだ多少抵抗がある、自分には時期尚早...と思っている貴弟ほど勤めたい1本。年上にもてあそばれたり、こちらから甘えたりできるのは、姉ゲーも人妻ゲー・ママゲーも一緒です。まずは、普段から慣れた姉系の夏姫お姉さん、その後お好みで志乃さん、クレアさんをこなしつつ、最後に本丸の桜子ママを攻めるのがお勧め。お約束のハーレムルートは大作。プレイの際には、くれぐれも気力・体力を万全にしてから。

## ゲスト参加いただいた

## 心優じき皆さまの

## コメントとご紹介と。

### 【表紙イラスト・千里きりんさん】

『こんにちは～

今回初めて全姉連の本に出させていただくことになりました千里きりんです。

ゲストではなく、いきなりの表紙カラーということで大変緊張しながら作業しました(汗

総裁殿との関係は昨年、HP を立ち上げたさいにリンクの報告をしたところから始まりました。

僕自身は 2003 年からの全姉連ファンで総裁殿の「姉」報告を楽しみにしてる一ユーザーでしかなかったのに、今回絵描きとして全姉連のお手伝いをできたことを本当に嬉しく思っています。

少し前は「姉」というジャンルがまだ薄っぺらくフワフワしていた時代もありました。

しかしなんやかんやで「姉」が日の目を浴びるところまでやってきたのです。

全姉連がある限り「姉」がなくなることはない……

総裁殿に敬礼！全姉連ばんざ～い！そして世界中の「姉」にありがとう……(涙)』

《総裁より》つ・い・に、表紙のカラー化を果たすことができたのは、全て千里きりんさんのお陰です。「人に絵を描いてもらう」なんて恐れ多く、また何より嬉しく感じる総裁にとって、これ以上ないほどの贈り物でした。

千里きりんさんの CG は、いつも細部まで精密で、そして見栄えのするものばかりで、美的センスゼロの全姉連とは対照的。未見の貴弟は、是非一度ホームページをご覧ください。

「きりんの憂鬱」

<http://kirinnoyuutu.bufsiz.jp/>

### 【「つよきす」レビュー・机上の九龍さん】

『はじめまして、机上の九龍と申します。お姉ちゃんが増えてもいい派です。むしろ産めよ増やせ

よ派です。産むのかよ！

この度はワタクシの拙いレビューを載せて頂きましてありがとうございました。拙いながらも一生懸命書いたので、お読み下さった方に何かしらの感慨があれば嬉しい次第です。ところで「つよきす」の元ネタで例の Wiki に載ってないものの一つ。祈センセの授業で「愛してません、他人でした」ってのは中島みゆきの「毒をんな」の歌詞ですよ？うん、マニアック過ぎるよ自分。』

《総裁より》きっかけは、机上の九龍さんのブログから全姉連にリンクが貼られていたのを見つけた時。姉寄りの美少女ゲームの体験版レビューなどを書いていらっしまったんですね。一人漫オノリの文体で。非常に細かい分析を加えているのに、それを感じさせない文の軽さにちょっとしたカルチャーショックを受け、さらにその筆者が「お姉さん」であることを知った日にゃ、私はどうしようかと。いや、性別的にはともかく、年齢が上なのは存じ上げませんが、何しろ机上さんはこちらを(コミケ参加時に)見知っていらっしやるが、こちらははっきり覚えていない始末ゆえ。文章の端々に転がるネタからは同年代を感じさせるので、五分五分と見ていますが如何に。答えはおそらく本書の発行日！

そんな彼女のブログはこちらです。

「これより帰投する」

<http://planetlaika.moe-nifty.com/blog/>

### 【イラスト原稿・キョルノフさん】

姉はもちろん、ママンが好物で人妻大好きで年中子作り発情期の「RENNOS / 全ママ連」のキョルノフさんからもゲスト原稿を頂きました。完成したファイルと共に「原稿描いてやったんだからお前の姉をよこせ」と横暴を言われたので頭突き食らわせてやりましたが。ウソウソ！愛してるよ！お宅の嫁さん！

後書き用のコメント書いて～とお願いしたら……………



誰・が・こ・ん・な・趣・味・に・走・っ・た・イ・ラ・ス・ト・を・描・け・と!

今から <http://www.h7.dion.ne.jp/~rennos/> に文句言ってくるんで、今回はこの辺で。

## 全姉連会報 第5号

発行：全姉連 総本部

発行日：2006年8月13日

著者：全姉連総裁

全姉連総本部 <http://www.zenaneren.org/>

(mobile : <http://www.zenaneren.org/a.cgi>)

[sousai@zenaneren.org](mailto:sousai@zenaneren.org)



本書発行に至るまで、全姉連を通じて多くの同志から姉ゲー情報を頂きました。

ここにお礼申し上げます。

本書のご感想、ご意見等々、心よりお待ちしております。



「いらっー！……お

姉属性 専門 **全姉連**.org

ちやんの言うこと  
聞きなさいー！」